

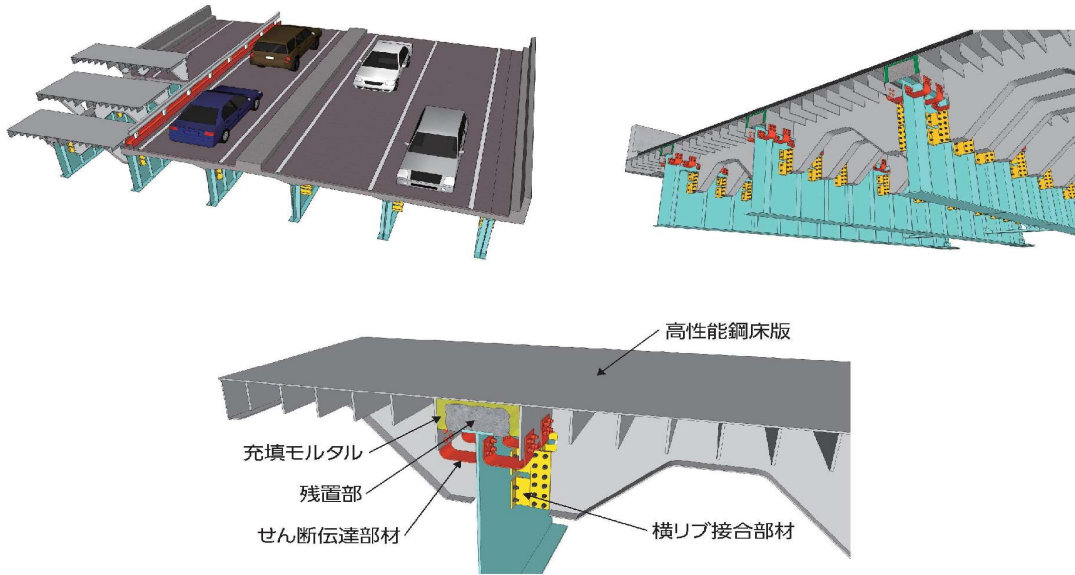
技術概要書（様式）

※別紙

出展技術の分類	安全・防災 インフラDX 維持管理 環境 コスト 品質 （該当分類に○を付記）		
技術名称	STEEL-C. A. P工法（取替え鋼床版）	担当部署	大阪営業部 九州営業所
NETIS登録番号	登録なし	担当者	長船 松芳
社名等	（株）横河NSエンジニアリング	電話番号	092-431-6190
技術の概要	1. 技術開発の背景及び契機		
	<p>本技術は、劣化したRC床版の急速取替えを想定した新型鋼床版タイプの工法である。</p> <p>近年、本格化する高速道路各社の大規模更新、補修事業においてRC床版の更新と桁の補強は全体の半分以上を占めていると予想されている。特に、常に大量の車両を通行させる必要のある都市内橋梁では交通機能の制限による社会的影響を踏まえ、工期短縮や夜間のみ工事実施が求められている。また、旧基準で建設された床版を取替えるにあたり、現行基準に従う必要があるが、コンクリート系の床版の場合は幅員拡大や床版厚の増大の影響で死荷重の増大が避けられない。</p> <p>以上のことから、工期、施工時間を短縮しながら更新工事後の死荷重の軽量化が可能な床版取替え工法の技術開発が求められている。</p>		
	2. 技術の内容		
	<p>STEEL-C.A.P工法は、もっとも手間がかかり、騒音の発生源となる桁上コンクリートのはつりやスタッドジベルの切断を最小限とするため、これらをほぼ残置したまま鋼床版を被せる構造を採用し、高力ボルトにより即時に既設鋼桁との一体化を行うことを特徴としている。</p> <p>また、既設鋼桁との一体化は、あらかじめ既設鋼桁のウェブに横リブ接続用受け材（スプリットT）を設置しておき、鋼床版架設時に横リブとボルト接合する。次に鋼床版の大縦リブと鋼桁ウェブに設けたせん断伝達部材をボルト接合することで合成桁化している。</p>		
	3. 技術の効果		
<p>既設鋼桁の剛性を損なわないことから、施工時の安全性が保たれるため、道路供用しながらの車線分割施工にも対応でき、道路機能の制限を最小限に抑えることができる。</p> <p>桁上コンクリートをほぼ残置したまま床版の取替えを行うことができるため、急速施工が可能となり、工事開始から交通解放までに必要とする時間を従来工法と比較して60%まで削減することが可能となる。</p>			
4. 技術の適用範囲			
<ul style="list-style-type: none"> ・RC床版を有する鋼製橋梁への適用が可能。 ・死、活荷重増に対応できる範囲で道路幅員の拡幅が可能。 ・1車線の交通規制のみで、それ以外は全車線を車両通行可能とすることが可能。 			
5. 活用実績			
実績なし			

6. 写真・図・表

製品イメージ図



実物大モックアップ写真

